

研修会報告

令和 7 年 8 月 30 日

文 責：吉岡 翔

研修会テーマ「抗酸菌検査～全自動遺伝子検査検査装置の使用経験と医師が検査室にもとめること～」

開催日時：令和 7 年 8 月 30 日（土）13：00 ～15：10

会 場：Zoom ウェビナーを用いた Web 開催

司 会：東北大学病院 大杉悠平

生涯教育点数：専門教科 20 点

参加者：会員参加者 25 名 非会員 1 名 合計 26 名

講演 1

13:00～13:30「外部委託から院内化へ ～GENECUBE を使用した運用について～」

石巻赤十字病院臨床検査課 永沼結花 技師

講演 2

13:30～14:00「コバス 5800 システム～利点・欠点・使用感～」

東北大学病院診療技術部臨床検査部門 石戸谷真帆 技師

講演 3

14:00～15:00「抗酸菌感染症遺伝子診断の新潮流：次世代シーケンスの活用へ」

東北大学呼吸器内科 山田充啓 先生

内容

今回の研修会は「抗酸菌検査～全自動遺伝子検査検査装置の使用経験と医師が検査室にもとめること～」と題して、Zoom ウェビナーを用いた Web 形式で開催した。

講演 1 では、永沼技師より GENECUBE 院内導入による効果や運用状況についてご講演頂いた。ルーチン検査の手順を具体的にお示し頂き、実際の検査工程をイメージしやすい内容であった。また抗酸菌検査の院内導入に至る経緯についてもご紹介頂き、外部委託から院内検査への移行を検討している施設にとって、参考になる講演であったと考えられる。

講演 2 では、石戸谷技師よりコバス 5800 の利点・欠点・使用感についてご講演頂いた。実例を交えながらメリット、デメリットをご説明頂き、理解しやすい講演であった。臨床検査において診療報酬や経費を意識することは重要であり、本講演ではコスト面にも触れて頂いたことで、参加者が費用対効果を改めて考える機会となった。

講演 3 では、山田先生より抗酸菌の疫学から検査法の変遷、そして最新の検査法につい

てご講演を頂いた。日本が結核低蔓延国となった現在、非結核性抗酸菌症の検査の重要性が高まっている。この状況で、シーケンス解析による菌種同定や耐性遺伝子検出の必要性についてご説明頂いた。施設ごとに実施可能な検査は限られているが、自施設で行っている検査の意義を再認識する貴重な機会となった。

全体を通して活発な質疑応答が行われ、参加者にとって非常に有意義な研修会となった。参加者は 20 名と少数であったが、今後も会員にとって価値ある研修会を企画・開催していきたい。